

イタリアンライグラス系統適応性検定試験

< 初年度 >

玉代勢 秀 正
福 地 稔

I はじめに

昭和49年度牧草育種現地検討会議における特性検定及び系統適応性検定場所の拡大強化の要望にもとづき50年度より系適試験場所として沖縄県畜試が加えられた。当畜試では国の試験場および国の指定を受けた牧草育種指定試験地で新しく育成されたイタリアンライグラスの系統について本県における適応性を検討する。供試系統の調査は3ケ年を1調査期間とする。

II 試験材料および方法

供試材料は12系統、4品種である。播種は昭和51年11月8日で、2倍体150g/a、4倍体200g/aを条播(40cm巾)した。刈取月日は昭和52年1月17日、2月7日、3月4日、3月29日、4月20日、5月21日で6回刈取った。

III 試験結果と考察

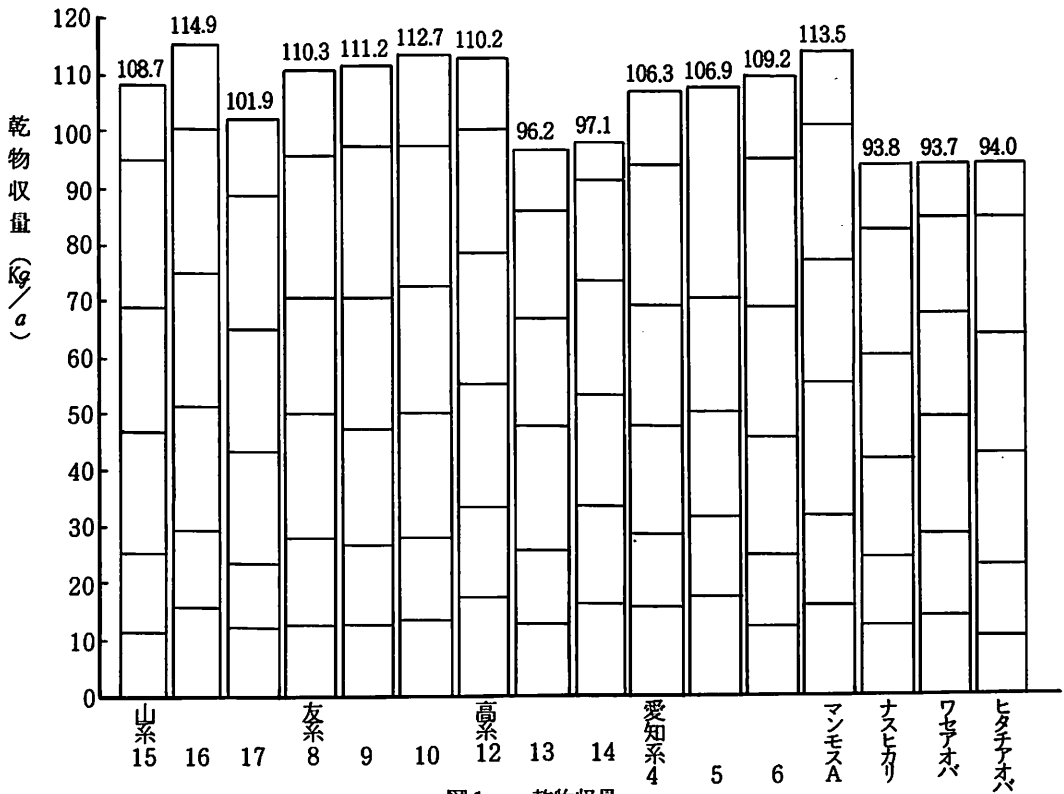


図1 乾物収量

発芽は全品種とも“良”であった。初期草勢は“良”ないし“中”であり特に悪い系統はなかった。収量を図1に示した。各品種間に有意差はなかったが、山系16号、友系の3系統、高系の12号、マンモスAは110kg/aを越し、高系の2系統、ナスヒカリ、ワセアオバ、ヒタチアオバが90kg/aの収量であった。

病害虫については3月下旬に山系と愛知系を除く全品種にサビ病が発生した。その被害はワセアオバが最も大きく、次いでヒタチアオバ、高系の3系統であった。

出穂については刈取時に出穂の程度を調査した。4月20日の出穂茎は高系13号が最も多く次いでワセアオバ、そして高系14号とヤマアオバにわずかに出穂茎がみられた。5月21日には愛知系4号、6号では出穂茎はなく、愛知系5号、山系の3系統、ナスヒカリ、マンモスAに少数の出穂茎があった。他の品種では多数の出穂茎がみられ出穂盛期を示していた。なお旬別の気象図を図2に示した。

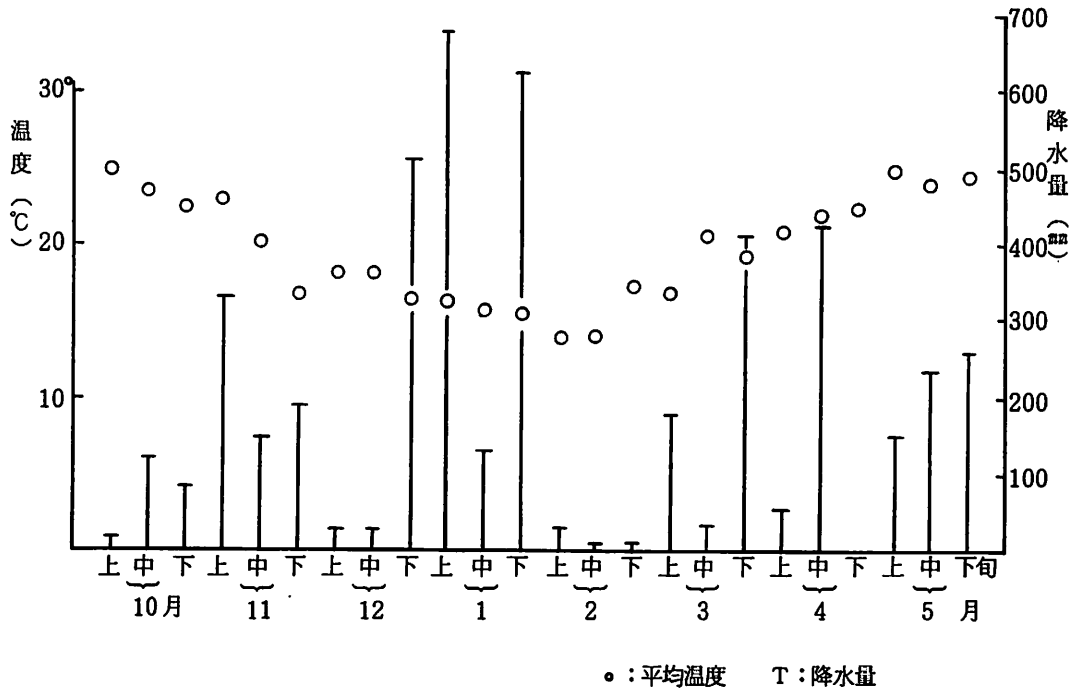


図2 旬別気象図(那覇気象台)